

## 第3回八幡市行財政改革検討懇談会議事録＜要点＞

- 日時：令和4年8月2日（火）午後2時00分～午後3時30分
- 場所：分庁舎2階 会議室A
- 傍聴者：なし

### 【委員一覧】

- ◆橋本行史会長
- ◆松田時典会長代理（欠席）
- ◆石田辰也委員
- ◆川原絵美委員
- ◆壬生裕子委員

1. 開会
2. 副市長あいさつ
3. 協議・報告事項
  - (1) 第7次行財政改革実施計画まとめについて

### 【諮問事項①：持続可能な行財政構造の確立】

#### ＜委員＞

「1. クラウドファンディングの導入・運用」について、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングが事業化される予定とのことであるが、企業版ふるさと納税を取組項目に入れなかった理由は何であったか。

#### ＜事務局＞

企業版ふるさと納税については、地域再生計画の策定が必要であり、計画には寄附目標額を記載しなければならず、寄附を希望する企業との調整が必要であるなどの理由から導入の具体化には至っていない。過去には、スマートウエルネスコミュニティ協議会で寄附を希望する企業と市町村をマッチングさせる枠組を検討していたが、現在のところ実現していない。

#### ＜委員＞

計画書の表記について、効果額は削減額を意味しているとの認識でよいか。

#### <事務局>

効果額の内容は取組項目によって異なり、収入の確保に関する取組項目であれば増加額となり、支出の削減に関する取組項目であれば削減額となる。また、取組項目 25～29 の長寿命化計画については、長寿命化改修により削減できる将来の維持管理コストという理論的な数値となる。

#### <委員>

計画書の継続性を考慮する必要はあるが、効果額の表記が一般の方により分かりやすくなるよう見直しを検討していただきたい。

#### <委員>

持続可能な行財政構造と財政指標等に関して、ガイドラインのようなものは設けていないのか。現状では目指すべきゴールが示されておらず、経常収支比率などの数値は改善されたが、ゴールに達したのかどうか分からない。

#### <事務局>

総合計画において経常収支比率の目標値を設定しているが、仮の数値であり、ゴールとして目標値を示すことは難しい。

#### <委員>

持続可能な行財政構造に近づいているかどうかを示す基準があれば、行財政改革にも取り組みやすくなると思う。

#### <委員>

「4. 広告料収入の更なる拡大（検針票への広告掲載）」の取組内容の実績が令和2年度から令和3年度にかけて後退しているように見えるが、現在はどのような状況か。

#### <事務局>

担当課によると、検針票を発行するシステムの改修時に裏面への広告掲載が可能かどうか検討を行ったが、費用対効果が見合わないと判断して導入を取りやめた。そのため、再び検討段階に戻っているとのこと。

#### <委員>

費用対効果が見合わないのであれば、導入を取りやめて他のことに注力する方がよいと思う。

#### <委員>

「9. 未収金対策推進（国民健康保険料）」について、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う受診控えにより市の財政状況が改善するなどの影響はあったか。

#### <事務局>

この取組項目の数値目標は国民健康保険料の徴収率であるため、受診控えによる影響はないと考える。社会保険の加入対象者の増加や、国民健康保険から後期高齢者医療保険へ移行する75歳以上の対象者の増加により、国民健康保険特別会計の負担金は減少傾向である一方、後期高齢者医療特別会計の負担金は増加傾向である。

なお、受診控えの影響は、資料1（財政指標等）の経常収支比率の内訳の扶助費と繰出金が令和2年度から令和3年度にかけて減少していることから、一定の財政状況の改善があった。

#### <委員>

「36～38. 第3セクターの運営力の強化」について、第3セクターの運営改善に向けた検討の具体的な内容と検討後の状況はどのようなものか。

#### <事務局>

八幡市社会福祉協議会（取組項目36）については、担当課によると、自立的な経営努力を促すという観点から事業の必要性、費用対効果などに関して改善指導を行ったとのこと。

八幡市公園施設事業団（取組項目37）とやわた市民文化事業団（取組項目38）については、各担当課によると決算資料を踏まえた改善指導に取り組んでいるとのこと。

#### <委員>

今後においては、効果額を計上できるような取組を行っていただきたい。

#### <委員>

第3セクターの運営力の強化について、担当課で改善指導を行えるのか。通常業務との並行となるほか、改善指導のノウハウが乏しいのではないかと思う。ノウハウを有する課の協力を得て改善指導を行うことはできないか。

#### <委員>

八幡市は組織の規模が小さいため、専門部署の立ち上げが難しいという事情がある。

#### <事務局>

運営状況については、当初予算編成過程において、財政課で確認を行い、担当課を通じて

第3セクターに伝えている。

また、八幡市公園施設事業団は、指定管理者の選定を一部の管理施設において公募化して競争性を高めた。

<委員>

第3セクターの運営力を強化する方策について、引き続き検討していただきたい。

**【諮問事項②：多様な担い手による行政サービスの提供】**

<委員>

「53. 民間事業者等との連携事業の推進（やわた未来いきいき健幸プロジェクト）」の効果額は、どのように算定したのか。

<事務局>

令和元年度時点の参加群と非参加群について、それぞれの1人当たり医療費を追跡していき、令和3年度までの1人当たり医療費の差額に参加群の人数を掛けて算出している。

<委員>

医療費を用いて算出していることから、効果額には新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う受診控えの影響があるのではないかと考える。

<事務局>

参加群と非参加群の1人当たり医療費を比較しており、それぞれ同じ状況下における比較であるため影響はないと考える。

<委員>

健幸プロジェクトは、この事業にもたくさん実施されているが、効果額にはこれらの支出を加味しているのか。

<事務局>

支出額を加味して効果額を算出しているのではないが、財源に地方創生推進交付金を活用するなど、国の財源を活用して取り組んでいる。

<委員>

「52. 民間事業者等との連携事業の推進（観光情報発信等）」について、効果の検証はできているか。

<事務局>

観光入込客数は取組に連動して増えているが、消費のための場所が少ないことから観光消費額は連動して増えていない。

<委員>

観光消費額を伸ばせるような取組を検討していただきたい。

**【諮問事項③：効率的・効果的な市民サービスの提供】**

<委員>

「56. ICTを活用した情報発信（広報紙の配信等）」について、LINE、Twitterの登録者（フォロワー）数の増加実績をどのように評価しているか。

<事務局>

従来の広報紙とホームページに加わる新たな情報発信ツールとしてLINE、Twitterを活用している。

<委員>

効果と併せて、職員の負担も考慮すべきではないか。

<委員>

これらのツールを活用したことによる効果検証の実施を検討していただきたい。

<委員>

「70. 市民の移動手段の充実」について、取組の現状はどうなっているか。

<事務局>

地域公共交通計画は令和3年度に策定済みである。また、地域公共交通会議では、坂道の多い橋本地区におけるNPO法人のデマンド交通や市の南北路線などについて協議、検討している。

<委員>

利用者の減少に伴いコミュニティバスなどは縮小や路線変更の必要性が出てくるのではないか。

<委員>

現状では石清水八幡宮駅と樟葉駅の利便性の差が大きく、工業団地で働く人のほとんどが樟葉駅を利用していると聞いた。工業団地で働く人向けのバスがあれば一定程度安定した需要が見込めるであろうが、夜間の運行も必要となり採算を取りにくいいため民間委託には課題がある。

また、樟葉駅発のバスが充実しているため、市の南北を運行する路線を設けたとしても利用者は少ないのではないかと。

<委員>

重要な課題であることを認識し、中期的な視点を持って取り組んでいてもらいたい。

**【全体を通しての意見交換】**

<委員>

学校のプール授業の民間スポーツクラブへの委託は、どの取組項目に当たるのか。

<事務局>

市の直営で行っているものを民間に委託するというのであれば「50. 外部委託の更なる推進」に当たる。

<委員>

民間委託については、市民の利便性向上に資するものであれば検討していただきたい。

<委員>

市民協働活動事例集の現状はどうなっているか。

<事務局>

市民協働活動事例集は、令和3年度に作成済みである。自治会と公民館に配布し、ホームページで公開している。取組項目では「40. 市民協働事業の推進」に当たる。

<委員>

市民協働活動事例集が公表されていることを知らなかった。

<委員>

市民協働活動事例集については、公表して終わりにするのではなく、更なる活用や内容の更新を検討していただきたい。

4. その他

→今後のスケジュールについて説明。「懇談会の評価」について、事務局案の確認を会長に一任することで一致。

5. 閉会

以上